

平成25年度第6回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成26年3月26日(火) 午後6時00分～7時50分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

議題 (1) 第三次読書のまち八王子推進計画について

資料1 読書のまち八王子推進に向けた課題

資料2 生涯読書活動推進計画部会第5回 3月12日概要

資料3 子ども読書活動推進計画部会第5回 3月25日概要

資料4 第三次読書のまち八王子推進計画についての意見(山崎委員)

資料5 幼稚園・保育園における読書活動の調査

学童・児童館における読書活動の調査

その他

出席者氏名

委員	三浦 眞一	山崎 久道	小平 有紀	三塚 久美子
	鈴木 康弘	谷口 葉子	森岡 庸浩	志田原 節子
	豊田 亘男	田中 勉	平塚 裕之	細井 東

欠席者氏名

委員	吉澤 淳	中村 和也	斉藤 和巳	三上 浩一
	小澤 篤子			

事務局 豊田中央図書館長、中村生涯学習センター図書館長

福島川口図書館長

中央図書館：一杉主査

生涯学習センター図書館：高橋主査

川口図書館：藤本主査

南大沢図書館：新井主査

傍聴人 0 人

会議録署名委員 豊田 亘男

【議事概要】

三浦議長より

本日の欠席委員について

吉澤委員、中村委員、斉藤委員、三上委員、小澤委員より所用により欠席の連絡を受けている。

また、出席者過半数を超えているため有効に成立しています。

議題（１）第三次読書のまち八王子推進計画について

読書のまち八王子推進に向けた課題

《事務局より報告》

本日は委員の皆さんに色々な意見を頂き、生涯学習審議会の諮問事項に対する事務局案の答申案を考えていきたい。また、2つの作業部会で出された意見について報告をさせていただきたいと考えています。

1. 読書活動を取り囲む現状

《委員からの質問・意見》

特になし。現状認識としては間違いない。

2. 八王子市の読書活動推進の最近の主な実績

《委員からの質問》

①実績として他市との連携についてはどうなのか。

《事務局より回答》

①最近の実績ではなく、かなり以前からの取り組みです。連携の発端は市民の方が橋本図書館を利用したいと相模原市の方へ直訴し、それを受け、相模原市との連携が始まった。続いて京王線沿線の7市、あきる野市と連携を取っている。

3. 読書活動推進における課題

《委員からの質問・意見》

①課題として、「市民（地域）の問題解決のための情報発信の強化」と挙げているが中身がよく分からない。そもそも市民の方が課題を抱えて図書館に来るという発想自体が疑問。文科省を気遣った文面に感じられる。八王子市として何を行うかを明確に掲げた方が良いのでは。「問題解決の情報発信」とは具体的に何を行うのか。

②課題として4つ挙げているが、読書推進に関する本等を読めば出てくるような内容の4つに感じられる。八王子市として独自性の課題はないのか。

③八王子は市域が広い。なかなか図書館に来られない市民に対して図書館に足を運ばなくても何かサービスを受けられるような仕組み作り、ICTなどを利用したサービスの拡充も課題では。

- ④八王子市内での移動手段は車が当たり前の中、駐車スペースが無い。駐車スペースの確保が利用者増加に繋がるのでは。

《事務局より回答》

- ①「問題解決の情報発信」の一つとして、レファレンスの情報をデータとして入れ込んで利用者が図書館で検索する際に役立つような仕組みを考えている。情報発信の1つだと考えている。
- ②八王子の強みは、大学が23校、小中学校が107校それに加え、地区図書室17ヶ所。これらを全て開放していくことが狙いであり、様々な課題はあるが、課題を解決していきながら市民へ開放し、利用されるような組み立て方を考えたい。

《議長より》

八王子の独自性は伝わるような課題づくりをするようにしてほしい。駐車スペースについては1つの例として、施設整備の課題として取り上げるか検討してほしい。

4. 生涯学習審議会諮問事項における課題

(1) 市民協働、市民主体の生涯学習の一層の推進

《委員からの意見》

- ①小P連では保護者向けの読書感想コンクールを行ったりしているが、保護者が読書に対する意識が薄く感じる。学校公開などで保護者が来校した際に図書室に保護者用のコーナーを作って本を借りることが出来る仕組み作りを検討してほしい。
- ②「家庭・地域・学校を結ぶ」と言われて久しいが、相変わらず「結ぶ」とか「連携」で止まってしまっている。読書の部分について何かもう一歩踏み込んだ表現の仕方はないのか。それによって読書推進への先駆的な取り組みが考えられるのと思う。難しいとは思いますが是非検討いただきたい。

(2) 自ら学ぶ力の養成

《委員からの意見》

- ①お年寄りの読書と子どもの読書と分けた考えをしているが、一緒に考えられる取り組みも検討してみたは。
- ②大学で取り組んでいるが、話しが出来るように部屋を分けたり、奥に行くにつれて静かなスペースになるような、空間で区切るのを検討してみたは。図書館は静かにする所で一言も発してはいけないというのが昔からの考え方だが、気軽に来てくださいと言っているならば、気軽に来れる場所(スペース)づくりも検討できるのでは。
- ③中高校生や大学生が利用しやすい環境については、アンケート収集なども一つの方法ではないか。時代も変わっているので、今の学生にあった図書館環

境づくりを明確にして進めていただきたい。

- ④家庭で親が本を読むこと自体が減っている。読み聞かせの習慣を親に根付かせる取り組みも何か検討してほしい。小さい頃から本に慣れ親しむ。

(3) 学びの成果を生かす制度

《委員からの意見》

- ①子どもが受け手の「読み聞かせ」ではなく、子どもが老人施設や福祉施設などで「読み聞かせ」を行う取り組みも良いのではないか。「読み聞かせ」では上からのイメージがあるので「読み語り」などのタイトルで行えないか。子どもにも良い経験になる。

図書館が働きかけて、地域・ボランティア団体との連携で朗読大会などの開催をしてみてもは。あまり読書をしない子にも読書の動機付けにもなり、読書をしている子には良い発表の場にもなるのでは。

- ②スポーツみたいに一生懸命練習すれば大会などで発揮できる場があるが、読書についてはたくさん本を読んでも発表する場がない。感想文や感想画ぐらい。読書したことを発表出来る取り組みも検討いただきたい。
- ③読書をしている人としていない人では表現力が絶対的に違う。ボキャブラリーの数も明らかに違うので、聞いている方も面白いと思う。発表の機会は是非とも検討いただきたい。

《事務局の意見》

- ①図書館では「おすすめ本」などでポップ作りは現状も行っている。発表の一つとして、子ども版ビブリオバトルのような取り組みの計画も検討してみたい。

《委員より》

必ずしも優劣をつける必要はないが、地域も巻き込んだ発表できる場・機会を検討していただきたい。

(4) 生涯学習振興のための教育施設等の活用策

《委員からの意見》

特になし

生涯読書活動推進計画部会第5回 3月12日概要

◆「生涯学習審議会 答申素案（図書館分）について」

《委員からの質問・意見》

- ①以前、勉強だけをしに来る学生について受け入れなかった経緯がある。今後受け入れないのか、受け入れるのか、別の方法を考えているのか聞かせていただきたい。
- ②児童館は18歳までが対象なので、児童館との連携も考えてみてはどうか。

- ③フィンランドではスーパーと隣接しており、非常に来館しやすい。生活の中に密着した図書館が理想。

《事務局より》

- ①図書館は「勉強する場所」から「図書を借りる場所」になった経緯から受け入れなくなった。現在は少しずつ変わってきていて、自習室を設けている図書館もあるのは事実。八王子図書館としては、受験勉強や自習をするために来てくださるのではなく、あくまでも本を利用した調べものや勉強を、1人でも友達やグループでも来ていただけるようなアプローチを考えたい。自習室については、要望が多いのであれば考える必要があると認識している。
- ②中央図書館では現在学習スペースを設けているが、施設・スペースの問題があり全館では現状難しい。本来的な図書館利用をする方が使用できず、勉強している方に長時間使用されてしまうのは問題があると考えている。中央図書館の学習スペースについては、ワンフロアに机と椅子があり、複数人が使用している。持参した物で、図書館の本を利用しなくても使用できる。
- ③学習支援課で学習スペースの提供は行っている。
- ④委員として子ども家庭部にも参加いただいているが、図書館だけでは難しい部分については共同で行うことを考えており、児童館についても必要があれば一緒に取り組みたい。

◆電子書籍・デジタルアーカイブについて

《委員より質問》

- ①大衆的に出ている紙の本をデジタル化した「電子書籍」と、希少性を重視したものをデジタル化する「デジタルアーカイブ」を混在して考えることが分からない。

《事務局より回答》

- ①電子書籍とデジタルアーカイブについては全く別の考えであることは理解している。電子書籍については電子図書館の考えに立って、紙の物を電子データに置き換えることによる蔵書スペースの問題も解決され、返却期限内に必ず返却される利点大きい。デジタルアーカイブについては保存と提供についてサービスが必要と考えている。5年間の計画としてどちらも推進していく意味からの表記である。

《委員より意見》

- ①市として歴史的価値のある資料を電子化する「デジタルアーカイブ」と市民サービス向上のための「電子書籍」については内容を明確にした上で順位付け・順番付けをした表記を検討したほうが良いのでは。

子ども読書活動推進計画部会第5回の報告事項

◆生涯学習審議会諮問事項における課題についての意見等

《委員より意見》

- ①放課後子ども教室との連携については、地域によって関わっている推進員やシルバー人材の方も違い、形態も違うため、一律の取り組みは難しいと思う。それを踏まえた検討を部会でも行ってほしい。

《委員からの質問》

- ①図書館には「千人塾」があるが、それ以外の調べ・学びの会はあるのか。

《事務局より回答》

- ①図書館としては今のところ千人塾以外には考えていないが、生涯学習の観点から「いちよう塾」というのがあるので、図書館とそこの関わりについて今後考える必要があると認識している。

《委員からの意見》

- ①大人と子どもと一緒に調べものや学習ができる「塾」のような考えも検討してほしい。
- ②世代間交流として絵本・本は友好的なツールである。それを活かせる活動も検討できるのでは。
- ③館小中学校では中学生が小学校へ「読み聞かせ」をする場面がある。他の学校でも広げられれば面白いのではないか。

第三次読書のまち八王子推進計画についての意見

《山崎委員より》

これから読書のまち推進計画を策定する上で、市や市民の皆さまに強調していただく必要があるのではないかと思う点を3点ほど挙げさせてもらいました。

- (1) 子どもの時の読書活動が大事である。その後の読書習慣に大きく結びついていることを裏付けとなるデータ、毎日新聞など様々な調査が行われており、八王子市でも調査を行っている。主張についてはそれに基づくバックデータをきちんと出して信憑性を示すやり方をしてほしい。
- (2) 「読書好き」と「ネット・テレビ依存型」の二極分解となっている現状で、「ネット・テレビ依存型」の人たちに対し、どうやって読書活動の恩恵を与えていくのがポイントになる。
- (3) 図書館という施設については公共図書館であろうが、大学図書館、学校図書館でも違いはない。従って、学校の図書館へ行く癖がつけられれば、その後の生活でも必ず図書館へ来館する。

以上3点について何らかの形で配慮いただければと思います。

「幼稚園・保育園」及び「学童・児童館」における読書活動の調査

※調査項目・調査内容等について意見を求める。

《委員より質問》

- ①従事している職員のみアンケートなのか。
- ②「読み聞かせ」の問いで、1回あたり、どの程度の時間をかけているのか聞かないのか。

《事務局より回答》

- ①今回の調査は職員に対してである。
- ②時間についての質問も追加いたします。ご意見ありがとうございます。

《委員より意見》

- ①最初に蔵書数などを聞いているが、あまり本を持っていない施設はそれ以後の質問に答えづらくなる。本質的な質問ならば良いのだが、本当に聞きたいのは「読み聞かせ」を行っているのか、「図書館の派遣を受けたいか」等を聞きたいのだから、質問の順番を考えるべきではないか。

その他

1. 委員の任期について

《事務局より》

現在の委員の任期は平成24年4月1日から平成26年3月31日ですが、読書のまち八王子推進連絡会議設置要綱第4条「委員の任期は、2年間とし、再任を妨げない。」とある。現在、第三次読書のまち推進計画を策定中であり、委員の変更は計画策定上支障をきたすと判断し、今回に限り委員全員の再任を依頼したいと考えている。また、団体からの代表で委員になられている方で団体の役職が変わる方は次の担当の方でお願いします。

《委員より》

同意いただく。

2. 次回会議について

平成26年4月22日（火）、18時から
八王子市中央図書館 3階 会議室
で行う予定とする。

会長より、「活発なご意見ありがとうございました。いろいろと意見が出ましたので、それを踏まえ引き続き検討していただきたい。」と依頼あり。